

□ 書 評 □

A Manual of Radiographic Positioning

「X線撮影法のポイント」

〔著〕 G. B. Greenfield, S. J. Cooper

〔監訳〕 田坂 浩 東京大学教授

〔訳〕 秋貞雅祥 三井記念病院部長

埼玉医科大学教授 坪 郷 義 崇

本書は著明な放射線科医 Greenfield 教授および Cooper 技師長の共著によるルーチン撮影法の手ほどき書である。簡潔で要を得た原著であるが、訳書となるとその訳者に人を得ないとせっかくの良書も悪書となりかねない。幸い訳者秋貞博士は一言一句たりともゆるがせにせず、正確に意味を汲みとってから日本語におきかえるという態度で原著に接し、原著の誤りと思われる所や不明の部分については直接に原著者に問合わせるといふ慎重さで翻訳を手がけておられたのを知っている。内容が正確に伝えられているという点では問題がない。また監訳者として田坂教授が目を通して助言を与えられていることも内容の信頼性をたかめている。

さて、本書の内容についてであるが、この書物はあきらかに実地にたずさわる放射線技師を対象としたも

のであり、またその内容は日常のルーチン撮影法にかぎられている。従って部分的にみれば、もう少し撮影法を追加してもらいたいと思われる箇所もないわけではない。しかし全体としてみるとこの書の本来の目的にかなった、バランスのとれた内容となっている。第1章は撮影法の最も基礎的な部分を要領よく解説している。とくに整位 (positioning) の概念がよくわかるように図で説明してあるのが便利である。この節の始めと終りにそれぞれ撮影の総論的な事項および放射線防護についての注意を1頁づつにまとめておさめてあるのは適切な配慮である。第2章から第9章へかけては、各部位の撮影についての目的、整位、撮影方向の指示、チェックポイントなどについての記載とその記載を視覚に簡潔に訴えるための写真および線画からなる内容が盛られている。これらの写

真や図はスペースをゆったりととって、見易いものとなっている。

X線写真が十分な情報源となり得るためには患者の体位、X線束の投影方向および投影角度、線束の中心という基礎的な原則を常に念頭において重要点をチェックしながら撮影を実行するという習慣を身につけなければならない。この意味でもこの書物は放射線技師の座右の書と言えるであろう。

この本は、アトラス的な要素があり、専門の技師だけでなく、技師になろうとする学生の勉強に、また一般医師、放射線科医が必要に応じて参考にするのに手頃な親しみ易さをそなえている。

A 4 変型 頁406 図224 写真304

¥9,600 千300

医学書院刊